

3-2 小学校 青少年赤十字(赤十字)の学習

スライドの選択・内容、アニメーション等、児童の実態や必要に応じてカットしたり修正して使ってください。※「ふりがな」のないページや箇所は指導者で説明してください。

- ・ 赤十字父「アンリー・デュナン」
 - ・ 赤十字誕生のきっかけとなった「ソルフェリーノの戦い」。
デュナン「ソルフェリーノの思い出」で訴えたこと。五人委員会のしたと
 - ・ 赤十字条約の採択 ・初のジュネーブ条約の調印。現在のジュネーブ条約(4条約と議定書)
 - ・ 赤十字のマーク。どんな時でも守らなければならないこと
 - ・ 「青少年赤十字はどのようにして生まれたの」
 - ・ 赤十字のしくみ(・赤十字国際委員会、 国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字・赤新月社)
 - ・ 赤十字の基本原則(赤十字の基本的な考え方、しくみ) ・ 「人道の四つの敵」の克服
 - ・ 「青少年赤十字って何」・ 青少年赤十字の実践目標(青少年赤十字活動のめあて) 「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」
 - ・ 青少年赤十字の態度目標(児童・生徒が自主的で自律した生活態度を養うために)
「気づき」「考え」「実行する」
 - ・ 「健康・安全」の実践例
 - ・ 「奉仕」の実践例
 - ・ 「国際理解・親善」の実践例
- ※ 一円玉募金「青少年赤十字活動資金による教育等支援事業」
愛媛県での取り組み 「手つなぎボランティア」、「青少年赤十字・赤十字奉仕団県大会」、
「高校生・中学生・小学生合同トレーニングセンター」



小学校のみなさん

こんにちは

青少年赤十字(赤十字)の学習

日本赤十字社愛媛県支部

青少年赤十字のマーク

赤十字のマークは 赤十字の心(やさしさ・おもいやり)



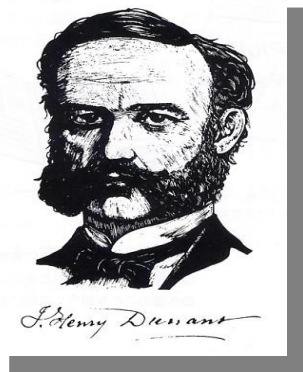
❁ 桜(さくら)は、人 なかま

❁ 14個の桜は、世界の中で14番目に青少年赤十字活動を開始した意味

● さくらの下の青色は、世界の空の色

❁ 「青少年赤十字」のリボンの下の桜らは わたくし

赤十字の父「アンリー・デュナン」について



**1828年5月8日(スイスの
ジュネーブに生まれる)**

父はスイス国民議会議員
務めた。政府の孤児保護院
(こじほごいん)の仕事もしていた。

母も孤児や貧しいひとの
面倒をみるなど、博愛に満
ちたひとでした。

デュナンは両親のもと自然
と人のために働くといった人
道的な心をもった青年に成
長していきました。

デュナン大学進学断念

1849年(21歳) リュラン・ソ
テー銀行に見習入行、やが
て共同経営者となる。

1854年～58年 銀行をやめて、アルジェリア(フランス
殖民地)に製粉会社をつくりました。土地が砂漠地帯
にあり、水の利用のことで、困っていました。

- ・ フランス皇帝ナポレオン三世に、土地や水のことで助けを求め、アルジェリアを旅立ちました。
- ・ 当時、フランスはイタリア統一を目指すサルジニアと手を結び、オーストラリアと争っていました。

1859年6月24日 フランス・サルディニア連合軍とオーストリア軍は、北イタリア、ロンバルディア平原のソルフェリーノで戦を初めました。

1859年6月25日早朝 デュナンは、ソルフェリーノの近くのカステリオーネで、村人たちと傷ついた兵士を敵味方の別なく助けました。

1862年 デュナンはソルフェリーノのことについて「ソルフェリーノの思い出」という本を出版しました。

1869年 デュナンは赤十字をつくることに努力しましたが、事業のほうが破産してしまい、赤十字から引退していきました。

1901年 世界初のノーベル平和賞を受賞

1910年10月30日デュナン(82歳)スイスのハイデンで亡くなりました。

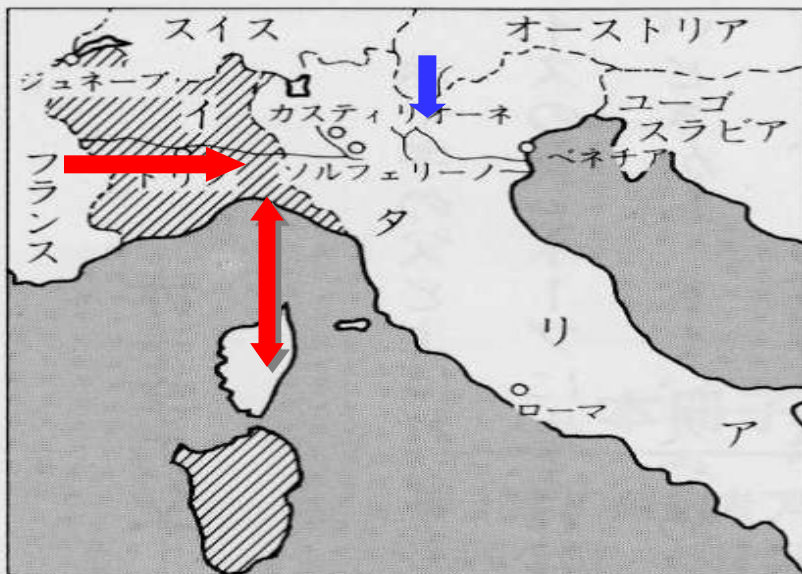
赤十字誕生のきっかけとなったこと

ソルフェリーノの戦い（1859年6月24日）
未明3時から始まり、6時には大激戦となり、11時間も続いた

連合軍(フランス・サルジニア)
15万人

VS

オーストリア軍
17万人



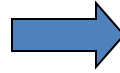
イタリアの地図（ななめの線の部分が、当時のサルジニア王国。）

戦場 ロンバルディア平原20km
4万人もの死傷者がでる



カステリオーネでのアンリー・デュナン

アンリー・デュナンは、当時アルジェリアで製粉会社を経営していました。ナポレオン三世に援助をしてもらうため、ソルフェリーノに来ていました。



オーストリア軍とフランス・サルジニア軍の戦いは、11時間も続き、40,000人もの兵士が死んだり、傷つきました。



「傷つき倒れて戦えない兵士は敵も味方もない。同じ人間として助けよう。」



「みんな人間どうし」の「あいことば」のもと、町の人々と一緒に、敵・味方の別なく傷ついた兵士を助けました。



ソルフェリーノの近くのカステリーネの町で、傷ついた人を助けるアンリー・デュナン

ジュネーブに帰り デュナンがしたこと

「ソルフェリーノの思い出」
という本を書く

そこで提案したこと

- ・ 戦場で負傷した兵士を敵味方の別なく助ける民間の組織を各国につくる。
- ・ その団体が戦場で安全に活動できるように国際的な取り決めるをする。

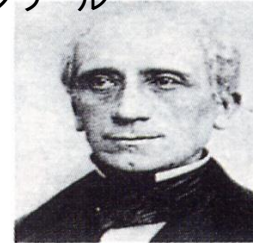


デュナンの考えを実現するため
ジュネーブの人々は「五人委員会」をつくる。

アンリー・デュナン



デオドル・モノワール



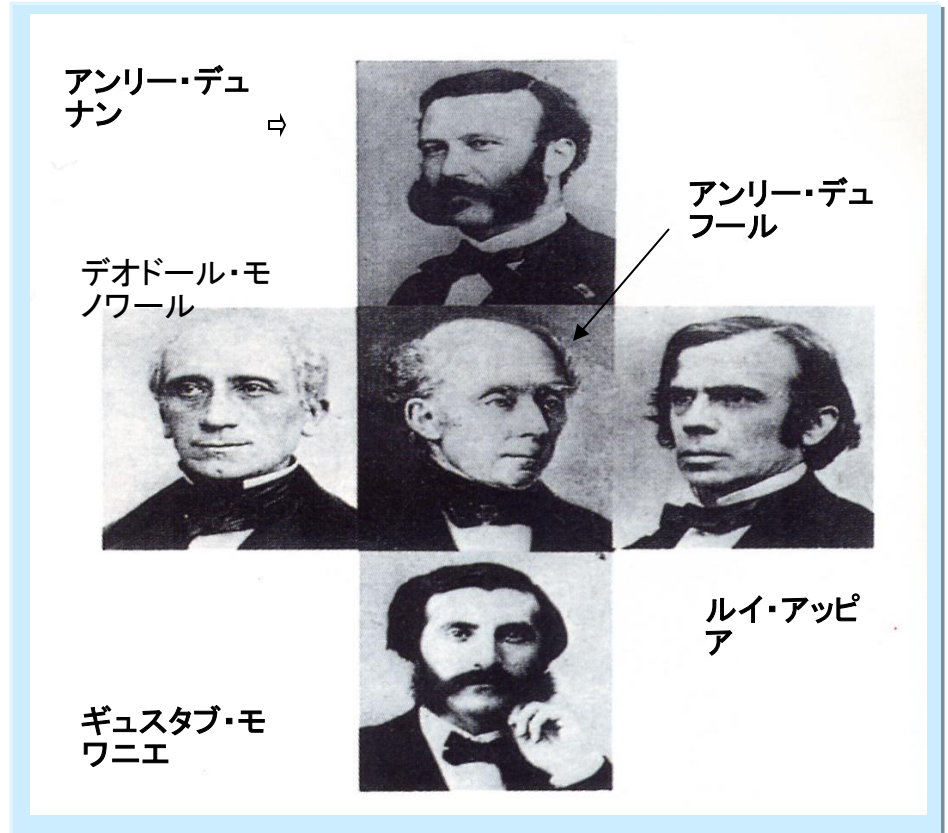
アンリー・デュフル



ギュスタブ・モワニエ



ルイ・アッピア



デュナンが提案した
ことの実現をめざし



五人委員会が
まずしたこと

1863年10月26日～29日
ジュネーブのアテネ宮 に14カ国
の政府代表者、2カ国の団体代
表を迎える。



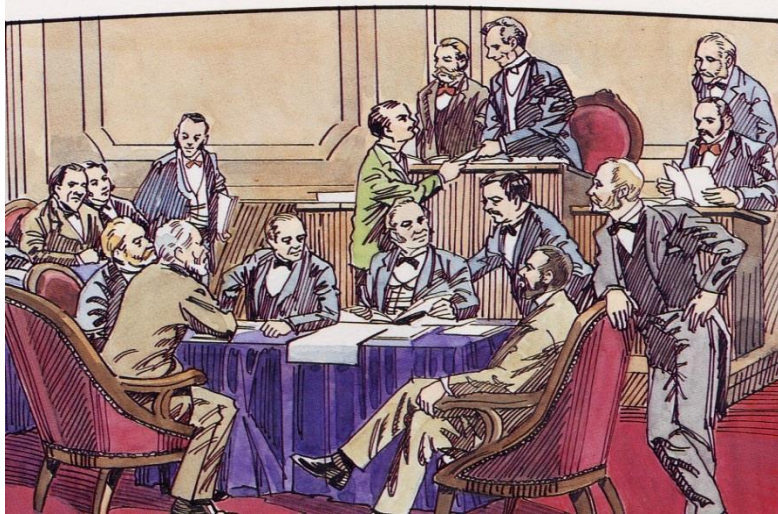
初の国際会議
を開く



戦場で負傷した兵士を敵・味
方の別なく助ける民間の組織
を各国につくる。



10カ条の赤十字条約の採択
医療人員中立化の承認、各国に救
護団体(きゅうごだんたい)の設立、「白地に
赤十字」の使用の決定、等



書記を務める アンリー・デュナン

1863年10月29日 赤十字の誕生

よく年、「各国の救護団体」が「戦場で安全に活動できる」ための国際的な条約を作る



国際会議

1864年8月8日～22日 ジュネーブ
で開催(かいさい)

1864年8月22日 初の「ジュネーブ条約」(「陸の条約」)調印

参 加 国

スイス、バーデン、ベルギー、デンマーク、スペイン、フランス、ヘッセン、イタリア、オランダ、ポルトガル、プロシヤ、ウルテンベルグ

※ 出席しながら調印しなかった国
イギリス、ザクセン、スウェーデン、ノルウェー、アメリカ

救護のために活動する人や施設(しせつ)を攻撃しないという各国の約束を決めたもの

- 第1条 病院の中立
- 第2条 看護人の中立
- 第3条 占領された時の看護人の職務の保障
- 第4条 病院の器物は病院のもの
- 第5条 負傷者を保障する民家や個人の中立
- 第6条 戦場においては、敵味方の区別なく、傷病兵を看護する。
- 第7条 「白地に赤十字を描いたもの」を中立標識とする。
- 第8条 条約の実施に関する細目は、その交戦軍の司令長官の責任において決める。
- 第9条 各国に政府公認の救護団体をつくる。
- 第10条 批准は4か月以内にする。



最初のジュネーブ条約調印のを描いた図

赤十字マークの意味



保護

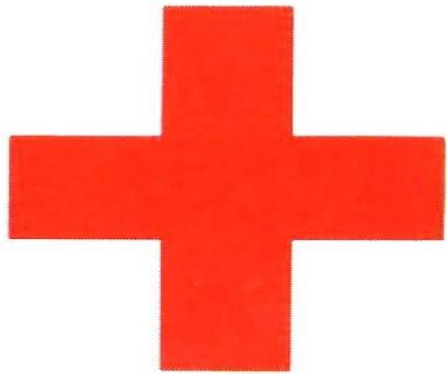
戦場で救護活動を行う人や施設を保護するためのしるし。

平和なときも赤十字の活動以外に、むやみにつかうことはできません。

表示—あらわしていること

このマークをつけている人や物（たてもの、じどうしゃ、どうぐ、・・・）は保護しなければなりません。

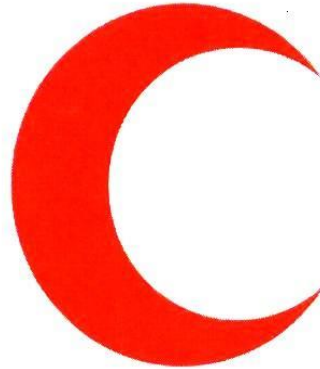
でんざい しょうにん
現在承認されているマーク



赤 十 字

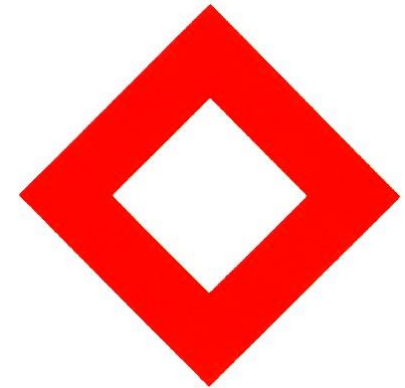
アンリー・デュナンの
祖国スイスに敬意を
表し、スイスの国旗の
配色を逆さにしたもの

1863年10月29日採択



せき しん げつ
赤 新 月

白地に赤十字は、
イスラム教徒に
不快の念を抱か
せるとしてトル
コが赤新月の使
用を主張し、
1929年に承認
された。



レッドクリスタル

標章の宗教性の問題で加盟で
きなかったイスラエルが赤十
字の一員になり、併せてパレ
スチナの加盟も認められた。

赤いクリスタルの中に独自の
マークを入れることも認めら
れた。（2006年6月20日～22
日 第29回赤十字・赤新月国
際会議）

ジュネーブ条約の歴史

条約の成立年度

1949年に修正(直す)、文民を加える。「陸・海・捕虜・文民の条約」
1977,2005年の「三つの追加議定書」がジュネーブ条約の代表的なもの

陸の条約

1864年

1949年

陸の上で戦って傷ついた兵士を助けます。

海の条約

1899年

1949年

海の上で戦って傷ついた兵士を助けます。

捕虜(ほりよ)
の条約)

1929年

1949年

敵につかまった兵士を守ります。

ぶんみん
文民の条約

1949年

戦いに直接参加しない一般の人たち文民を守ります。

ついかぎていしよ
追加議定書

1977年

第1追加議定書 — 国と国の戦いによって被害を受けた人
たちを守ります。

第2追加議定書 — 国の中の戦いによって被害を受けた
人たちをまもります。

2005年

第3追加議定書 — 赤いクリスタルマークを赤十字のマー
クとしてみとめました。



どんな時でも守らなければならない」
とがある。

「これは世界のきまりだよ」

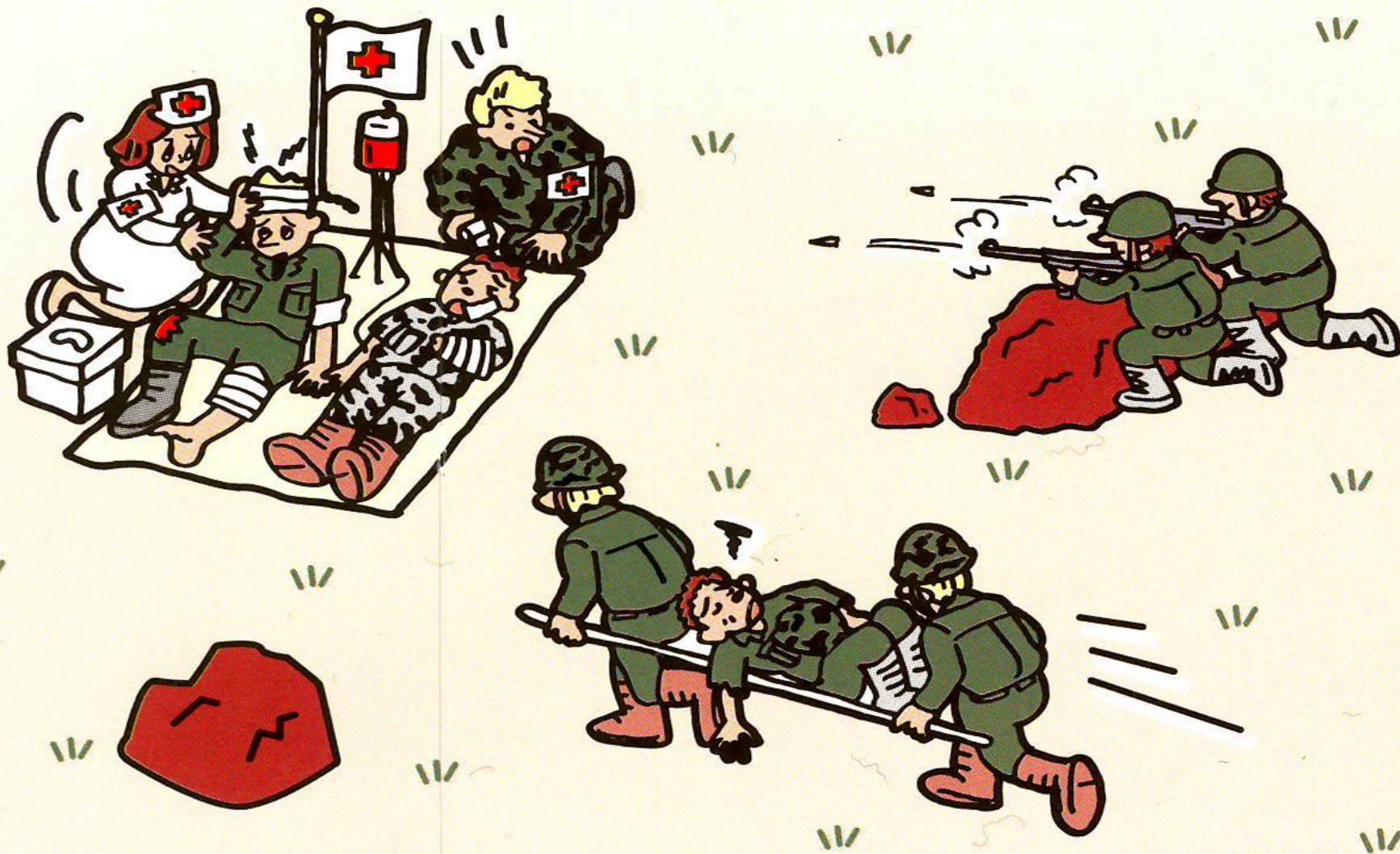
絶対に「口ではならない」と、口なければ
ならない」と



戦争ではいけないこと



- ・戦争ではないこと
- ・守らなければならないこと



「青少年赤十字」はどのようにして生まれたの

第一次大戦(1914 - 1918)の時、カナダ・アメリカ・オーストラリアの学校の児童・生徒と先生は



ヨーロッパの戦場となった国々の少年少女や傷病者を慰めるため、クリスマスカードや学校に文具、傷病者には下着や副木・つえを、さらに多くの人になぐさめや励ましの手紙を準備しました。



先生や児童生徒たちは世界に広がる赤十字を通じて送るのがよいと考えました。



赤十字は、戦場で苦痛に苦しむ人々に、心のやすらぎを与える生徒たちや先生方の活動を側面から援助しようと、願いを受け入れ、これらの品々を赤十字のルートを通じて各地に送りました。これがきっかけで青少年赤十字が生まれたのです。



日本では1922年滋賀県の守山小学校に誕生

第一次大戦が終わり、赤十字社連盟が生まれました。連盟では、戦争中の青少年による活動をもとに、「若い人たちに赤十字についてわかってもらい、日ごろから社会に必要な体と心をつくり、人々のためになってもらいたい」と各国につくことを勧めました。

赤十字社連盟が創設され青少年赤十字も誕生した

赤十字社連盟創設の背景となった第一次世界大戦

第一次世界大戦(1914～18)は、いまで人々が経験したことのない 悲慘な戦いであった。毒ガス兵器、戦車、航空機、潜水艦等が実戦に使用され、特に、航機の使用は一般住民に多くの犠牲者をだした。

- ・ 戦闘員の死者(900万人) ・ 民間人(1,000万人) ・ 負傷者(1,200万人)
- ・ 戦争による病気で死者(2,100万人)



第一次世界大戦が終わって、1919年2月1日、アメリカ・イギリス・イタリア・日本・フランスの各国は、第一次世界大戦の経験から、「赤十字が戦時の救援ばかりでなく、平時においても、災害救護、衛生、社会福祉、看護、**青少年赤十字**などの事業を行うべきである」と赤十字社連盟の創設を呼びかけた。

1919年5月5日 赤十字社連盟創設(各国赤十字社の連合体)となる。各国赤十字社の事業を助けることを主な仕事とする。

1983年「赤十字・赤新月社連盟」と改称 本部 — ジュネーブ

こくさい せきじゅうじ
国際赤十字のしくみ

国際赤十字とは、「赤十字国際委員会」「国際赤十字・赤新月社連盟」「各国赤十字・赤新月社」の三つの総称

スイス人中心で構成され、ジュネーブ条約が守られているかどうか調べます。新しい赤十字の設立を認めます。

ジュネーブ
条約加入国
(193か国)

4年に一度開かれる赤十字の最高の会議、国際赤十字の代表、ジュネーブ条約に加盟している国の代表も参加して話し合いを行う。

赤十字国際
委員会



赤十字・赤
新月国際会
議

国際赤十字・
赤新月社連盟



世界には現在186か国の赤十字社と赤新月社があり、さまざまな活動をしています。

各国赤十字
社・赤新月社
(186社)



平和なときの赤十字活動の中心機関としてつられ、ジュネーブにあります。

きほんげんそく

赤十字の基本原則

私たちもこの原則の考え方を理解し、身につけ、活動しましょう。

1956年、ジャン・S・ピクテ「赤十字の諸原則」を出版。この本で赤十字の基本になる考え方や仕組みをまとめました。この考え方基本となり、現在の「国際赤十字・赤新月運動の基本原則」となった。

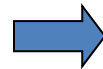


1965年 第20回国際会議で「国際赤十字・赤新月運動の基本原則」として決定。「赤十字の基本原則」・「赤十字の7原則」と言われている

人道(じんだう)

- ① いのちと健康を守る。
- ② 苦しみをかるくし、予防する。
- ③ 人をそんちょうする。

赤十字は、ひとりひとりが協力して助け合う活動を通し、たくさんの人々の苦しみをやわらげ、尊い命をまもってきました。その活動を行うときの考え方や活動の原則を7つにまとめました。



公平(こうへい)
中立(ちゅうりつ)
独立(どくりつ)
奉仕(ほうし)
単一(たんいつ)
世界性(せかいせい)

赤十字が活動をする元になるもの



「人道」の原則を実現するために必要なもの

人道

公平

中立

独立

奉仕

単一

世界性

① 人 道（じんどう）

赤十字は、戦場で傷ついた人を敵も味方も区別なく助けたいという願いから生まれました。

赤十字は、いつも、人間の苦しみをやわらげ、生命と健康を守り、人間の尊重（そんちょう）を確保（かくほ）することに努力します。

赤十字は、世界の人々がたがいに理解（りかい）しあい、仲よく助け合って平和な世界を作ることに関心します。

② 公 平 (こうへい)

赤十字は、だれに対しても、国や民族、宗教などによってえこひいきをしたり、差別をしません

赤十字は、人の苦しみをやわらげることに努め、最も苦しんでいる人からたすけます。

③ 中 立 (ちゅうりつ)

赤十字は、いつもみなさんから信頼(しんらい)を受けるために、どんな争いのときでも、どちらにも味方しません。

④ 独 立 (どくりつ)

赤十字は、国の助け合いの活動に協力し、国の法律に従いますが、いつも活動は赤十字の原則によって自主的に行動します。

⑤ 奉 仕（ほうし）

ボランティア・サービス(V・S)

赤十字は、苦しんでいる人、困っている人たちのことを考えて行動し、その人々の支えになります。

赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織

⑥ 単 一（たんいつ）

どんな国にも赤十字は、ひとつの国に一つしかありません。赤十字は、その国のすべてにわたって活動をします。

⑦ 世界性（せかいせい）

赤十字は、世界の中につながりを持っております。すべての赤十字は同等で、つねに協力します。

「人道の四つの敵」を克服する^{こくふく}

「人道の実現をさまたげるもの」として「ジャン・ピクテ」が提案しました。「やさしさと思いやり」を待った人間になるということは、この「人道の四つの敵」を克服していくことです。

① 利己心(りこしん)

自分さえよければ、他の人がどのように迷惑しても困っていても関係ないと皆がそう思っていたら、あなたが困っているときにだれが助けてくれるでしょうか？

② 無関心(むかんしん)

あなたが困った時、手助けを必要とした時、それを呼びかけてもだれもあなたを見向きもしなかったらどうでしょう。「無関心」な人は、苦痛や死に苦しむ人にまったく気がつかないのです。

③ 認識不足(にんしきぶそく)

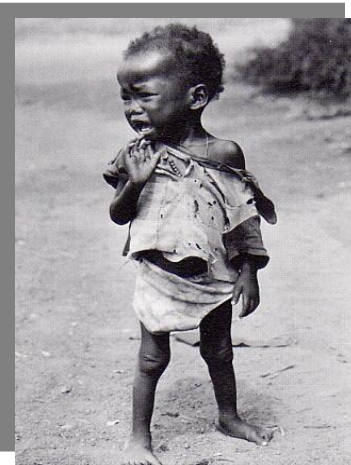
世界中では、毎日2万人もの子どもが5歳前に死んでしまいます。しかし助ける方法はあるのです。知らなければ、知ろうとしなければ、彼らは死んでしまうのです。

④ 想像力の欠如(そうぞうりょくのけつじょ)

戦争で今住んでいるところを失ったら…ちょっと想像できますか？想像すると、少しだけですがその状況がわかります。もしこの想像する力が欠けていたらどうでしょう。他の人の置かれた状況が、どれほど深刻なことかわかるのでしょうか。これを「想像力の欠如」といいます。

青少年赤十字 って何

どんなきもち
が生まれましたか

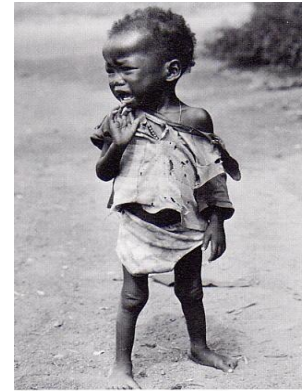


何かを
しなくては

何かを
してあげたい

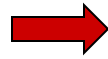


町の中・学校・テレビなどで



どんな気持ちになりますか

困っている人
苦しんでいる人



「何か役に立つことをしてあげたい」
(やさしさ・思いやりの気持ち)

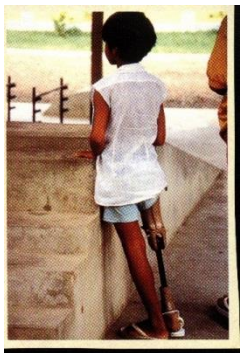
見たら



○ すなおに行
動に移す。

○ 「気づき、考
え、実行する」

○ ボランティア



目的

めあて

青少年赤十字のねらい

苦しんでいる人や
困っている人

……を
みかけると
だれの心
の中にも
ある。

「何か役(なにかや
く)にたつことをして
あげたい」という気
持ち

やさしさ
思いやりをす
なおに行動に
移す



そのことが
人々の幸せ
や世界の平
和のために
なります

学習のめあて



じっせん もくひょう 実践目標

自分が今、人のために何ができるかを考え、行動します。

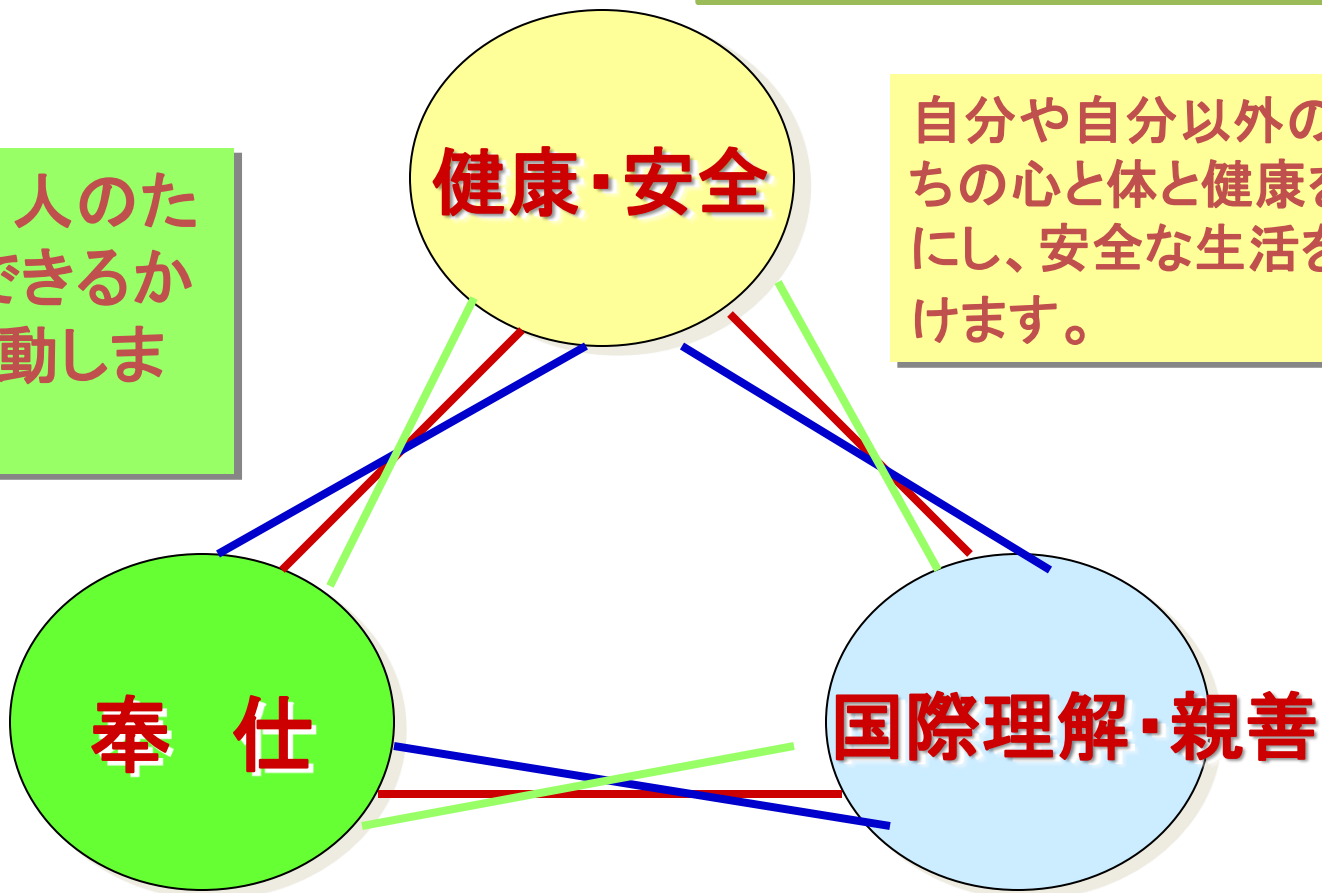
健康・安全

自分や自分以外の人たちの心と体と健康を大切にし、安全な生活を心がけます。

奉仕

国際理解・親善

日本の仲間はもちろんのこと、外国の人やその国のことを正しく理解して交流を深め、仲よく助けあいます。



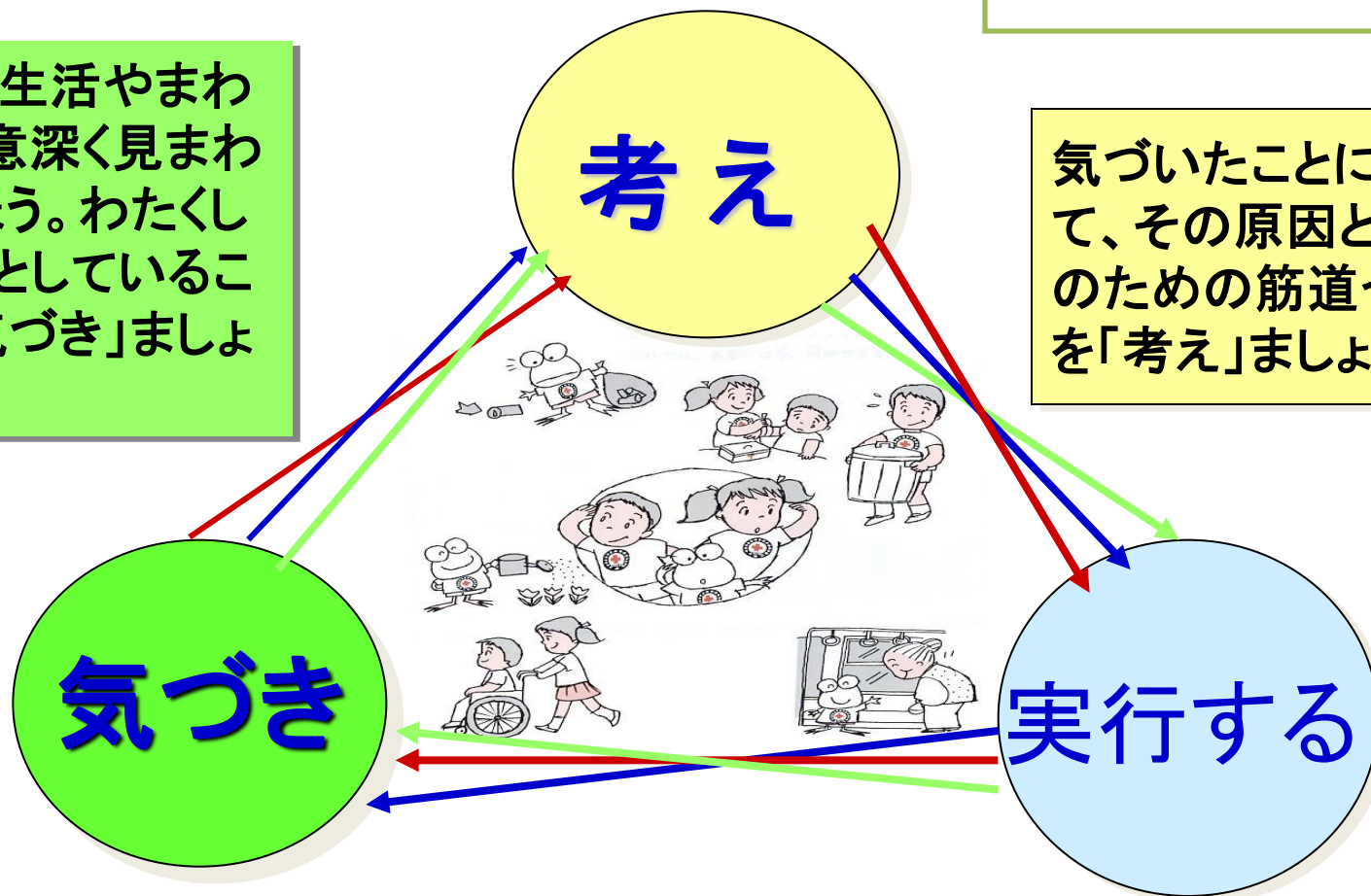
青少年赤十字の奉仕活動 (ボランティア)



態度目標

自分の生活やまわりを注意深く見まわしましょう。わたくしを必要としていることに「気づき」ましょう。

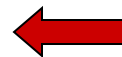
気づいたことについて、その原因と解決のための筋道や方法を「考え」ましょう。



「気づき、考え、実行する」をくりかえし、自分のものにする

問題の解決のために必要なことを「実行」しましょう

青少年赤十字の活動は
「気づき」からはじまります。



気づき



「できること・できそうなこと」
わかりましたか。



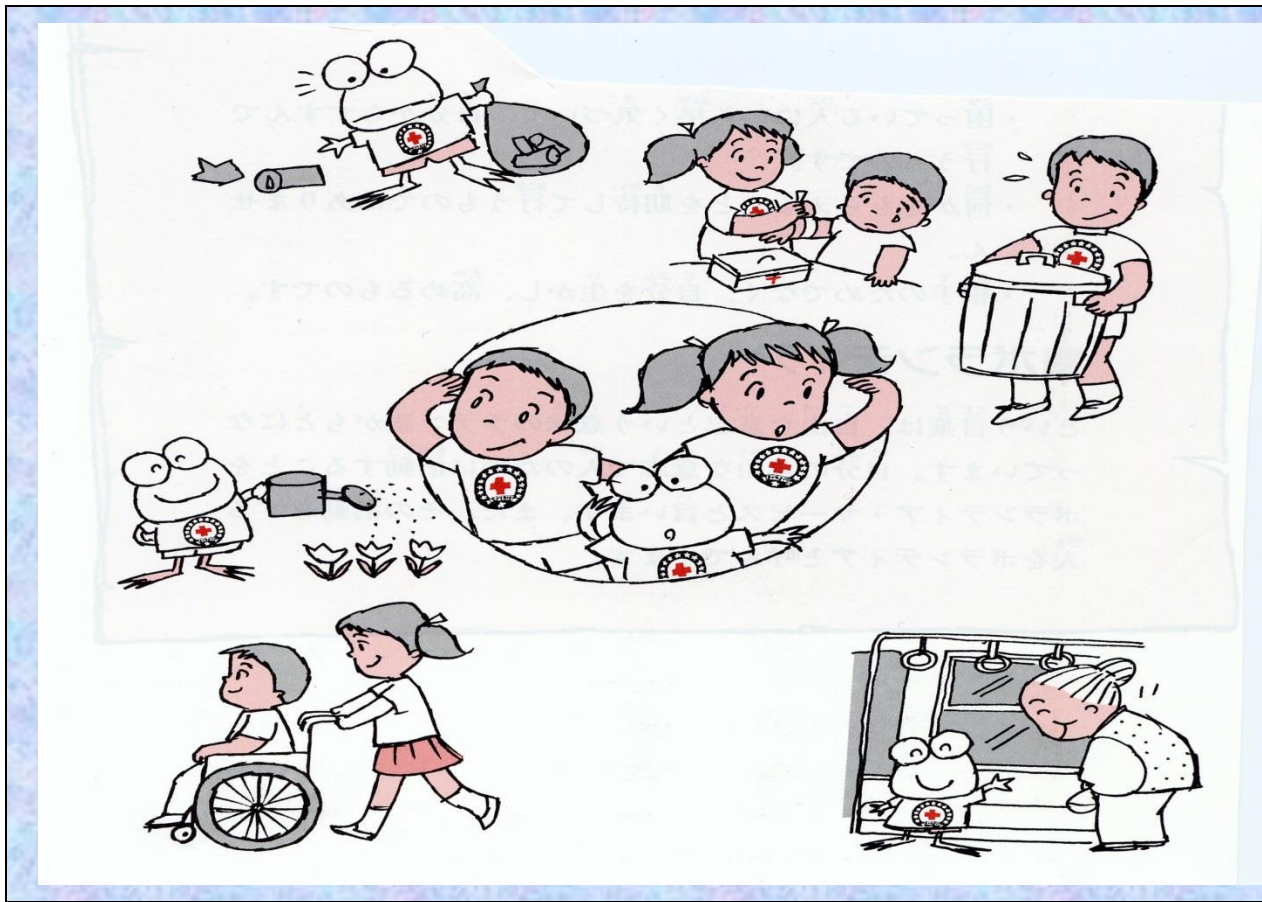
助けを必要としています。
何を必要としていますか。



どこかでだれかが



自分のまわりを注意深く見まわ
して見ましょう。



考 え

気づいたこと(問題)について
考え、調べる



本当に困っているのは何か



どんな助けを求めているか
調べる



解決策を考える 自分・グ
ループ



解決のための方法を選ぶ

→ 相手やの物(もの)の身になって考える

→ 相手・物(もの)はどんな状態か

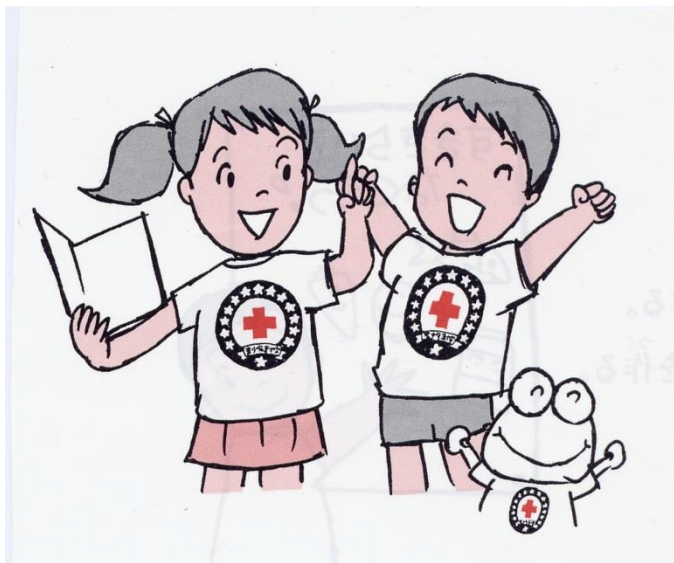
→ 相手にたずねる(さしつかえないようであれば)

→ どのように解決したらよいか方法を出し
合う先生にもたずねる

→ 自分たちでできる一番よい方法を決め、
その準備をする

実行する

活動計画案をつくる



- ① なぜするのか
- ② 何をするのか
- ③ だれがするのか
- ④ いつするのか
- ⑤ どこでするのか
- ⑥ どのような方法でするのか

実行

評価・反省

考え、準備したことに従って

終わったら、そのままにしないで反省 「うまくいったこと」「いかなかったこと」 など

新しい問題の発見や次の活動をよりよくする。

奉 仕

人のためと社会のため、国家と世界のため
につくす責任を自覚し、実行しよう



奉 仕

交 流 活 動

- ・ V・S（ボランティア・サービス）
- ・ 校舎内外の美化運動の推進
- ・ 福祉施設との交流・奉仕活動
- ・ お年寄り（独居老人）との交流
- ・ 交流ボランティア

他



「手つなぎ」 ボランティア

ちいき の おとしより と いっしょに



「手つなぎボランティア」 参加状況

年 度	奉仕団数	奉仕団員数	メンバー数	教職員数	他	計
9		778	5,301		311	6,390
10		1,013	5,225		532	6,770
11		1,377	5,660		459	7,396
12	29	1,377	5,660	459	946	8,442
13	28	1,320	4,909	493	530	7,252
14	29	1,685	4,713	426	1,743	8,567
15	28	1,561	3,928	397	1,535	7,421
16	37	2,134	5,883	553	1,682	10,252
17	34	2,244	6,555	670	1,841	11,310
18	32	1,542	5,207	550	1,572	9,109
19	32	1,613	5,027	511	1,400	9.10
24		1,437	4,510	349	1,445	7,751

「手つなぎボランティア」を 「総合的な学習の時間」の活動に

平成24年度 手つなぎボランティア実施計画

- 1 目 標 地域の赤十字奉仕団と協力して、郷土を愛し、
地域のために進んで働こうという態度を養う。
- 2 日 時 平成24年6月18日(月) 10:30～12:00
※ 20日(水) 10:30～12:00
- 3 対 象 4年生児童 120名
- 4 場 所 天赦公園(きりん公園)
- 5 内 容 空き缶・ごみ拾い、草引き等
- 6 日 程
10:30 学校出発
10:40 天赦園着
校長先生のお話
赤十字奉仕団の方のお話
10:45 ボランティア活動
11:30 片付け
11:40 感想発表
児童代表の言葉
11:50 天赦公園出発
12:00 学校帰校
- 7 準備物 (児童) スーパーの袋、軍手、草引きに必要な
用具(ある人)、体操服、体操帽子
(教師) ごみ袋、救急用具、竹ぼうき
(赤十字奉仕団) 軍手、ごみ袋
- 8 その他 総合的な学習の時間として実施する。事前指
導としてボランティア活動の意義を話し合い、事
後指導として感想文を書く。



題名 手つなぎボランティア 四年 三組 氏名 木下実咲	 今日、きりん公園で手つなぎボ ランティアをしました。草がたくさ んありました。ごみをひろたり 草をひいたりしました。すくよ りていました。わたしも、きりんこ うえんにあそびに行くとこんな よびれていたとは思いませんでした。 そんなにも町のひとたちや、手つ なぎボランティアをしている人たちがわたりあつた ている公園をきれいに行っているとは思いませんでした。すこ いなと思いました。私も公園を大事にしていきたい です。
--------------------------------	--

国際理解・親善

青少年赤十字・赤十字奉仕団県大会



一円玉募金



ちかの唱和



小学校部会



中学校部会



高校部会



奉仕団部会



国際理解・親善

高校生・中学生・小学生合同トレーニングセンター



オリエンテーション



入 講 式



ホ ー ム ル ー ム



健康安全プログラム(三角巾の活用法・AEDの使用法)



国 際 交 流



野 外 活 動

青少年赤十字トレーニング・センター

ねらい 青少年赤十字のリーダーとして必要なことを身に付け、各学校の赤十字活動の中心となってもらう。

トレーニング・センターでの生活

- ・ **自分で考え行動する**
ノーチャイム 自分から動く
- ・ **すべてに注意深く**
時計や掲示板をみる
人の話を聞く
まわりに気を配る
- ・ **自分の考えを持つ**
- ・ **自分を生かす**
ボランティア・サービス
(周囲のひとのため、
自分から進んで行動する)



- 活動内容** ① 先見 ② V・S ③ ホームルーム ④ ホームルーム連絡会議
⑤ 朝のつどい ⑥ 健康安全プログラム ⑦ フィールド・ワーク ⑧ グループ・ワーク
⑨ ワーク・ショップ

国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、仲よく助け合う精神を養う。



わたくしたちは、社会の一員として生きているとともに、いつも世界の国々とのつながりによって生活しています。外国の人やその国のことについて正しく理解し、交流を深めることはたいへん重要なことです。それは自分自身を知ることにもつながります。

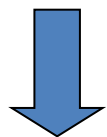
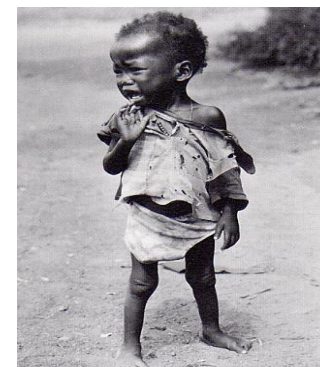


国際理解・親善

世界の人口

約60億人

めぐまれていない 国々の
なかまについて 知ろう



約21億人は
子ども

内、18億人が開発
途上国



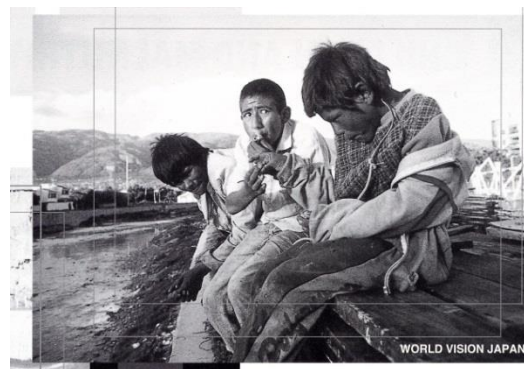
日々の生活にも困って
いる国々子どもが多い



その原因



- 病気
- 紛争
- 災害
- 貧困



地雷で負傷したカンボジアの子供

子どもたちと地雷^{じらい}

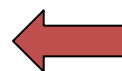


- 毎年地雷により9,600人が死亡
- 1975年から負傷した人は100万人以上
- 世界に1億個以上ある
- カンボジアでは、3万人が、手足を失っている。



カンボジアの地雷犠牲の子どもたち (ICRC)

「青少年赤十字活動資金」 による教育等支援事業



「一円玉募金」

世界
には

- ・1億100万人の子どもたちが学校に通っておらず。男子より女子が多い。
- ・11億人はトイレを利用できず。屋外で用を足しています。
- ・下痢が原因で、毎年、150万人の5歳未満子どもが死亡しています。



一円玉募金の支援先



モンゴル教育等支援事業

モンゴルでは高い貧困レベルとともに、都市への人口集中が問題となっている。地方では雇用や収入を得る機会が限られていること、交通網の未整備や不十分な教育・健康サービス、市場・情報へのアクセスの困難さがあげられている。さらに遊牧で生計を立てることができなくなった遊牧民が地方から移住し、「ゲル」(移動式住居)を都市郊外に立てて集落を形成することなどがあります。
また、安全な飲み水を利用できる人は、全人口の76%、適切な衛生施設(トイレ)を利用できる人は、50%です。



モンゴルはアジア大陸中央の、中国の北に位置する内陸国です。

衛生・教育環境の改善

文具6,000セット(1年あたり)を必要とする子どもに配布するほか、学校に対してスポーツ用品を配布しています。学校のトイレの修理や新設も行っています。



青少年赤十字活動の支援

メンバーに研修会を開き、救急法や保健衛生の知識を伝えるピア・エドューケーターを養成しています。



国際理解・親善

モンゴルの間でトピックアルバムの交換や交流も深めています。国際キャンプの建設もサポートしています。

ネパール教育等支援事業

ネパールの3つの地域



ネパールはヒマラヤ山脈のそば、東西に細長い形をした内陸国です。

青少年赤十字活動の支援

生徒の活動をサポートできるよう、先生向け研修会の開いたり、教材の配布をしています。



生徒が救急法や衛生について学び、他の生徒や地域の人たちに伝えていきます。



トイレ



街のゴミ



教室の様子



校内に作られた水道

衛生・教育環境の改善

学校の中の水道、トイレ、ごみ箱などの衛生設備の制作や修理

バングラデシュ教育等支援事業



バングラデシュはインド洋に面したガンジス川に位置し、人口約1.5億人、高い人口密度をもつ国です。

バングラデシュは、少しずつ経済や保健、教育などの状況改が改善されたているが、いまだに人口の84%は1日2ドル以下の生活で、貧困が大きな課題である。また、サイクロンなどの自然災害が頻繁に発生する地域でもあります。

新生児・妊産婦死亡率の高さや、5歳以下の子どもの46%が栄養不足の状態にあること、また、改善された衛生施設(トイレ)を使用できるのは人口の36%にとどまるなど、貧困と関連した保健衛生の問題が多くあります。

衛生・教育・環境の改善

学校内の衛生設備の改善や保健室の設置、メンバーに対する救急法講習や清掃活動のサポートを行なっています。特に貧しく困難な環境におかれている子どもへ文具を贈っています。

青少年赤十字活動の支援

メンバーの活動をサポートできるよう、指導者やサポート役の“コア・ボランティア”に対する研修会を開いています。

各校では、メンバーが学んだ救急法や衛生、赤十字・赤新月についての知識を他の生徒につたえています。



文具セットを受けとる生徒たち



ジャマルプールの高校・青少年赤新月メンバー



おわり